



## 牛ウイルス性下痢 (BVD) バルク乳検査のお知らせ

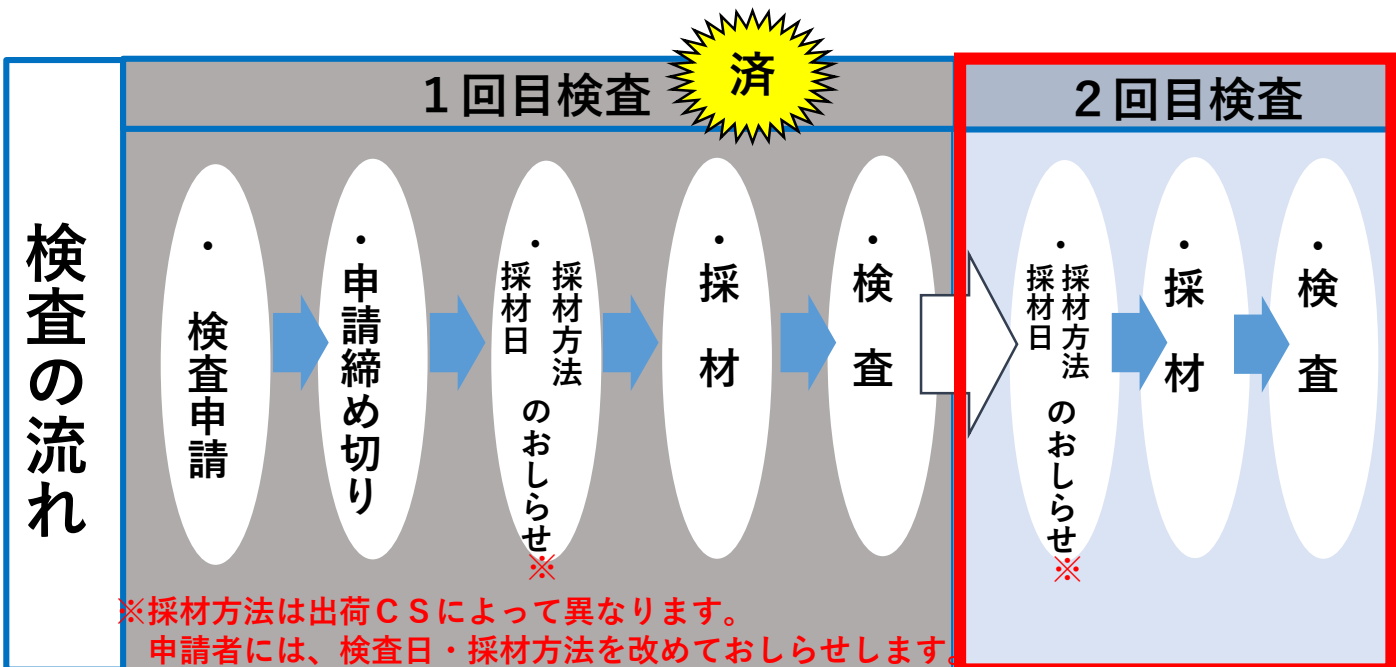


令和4年度バルク乳検査(2回目)を実施します。  
1回目の検査を受けられた方は自動的に2回目も対象になります。

1回目の検査を受けられていない方で2回目を希望される場合は、  
所属している各酪農農業協同組合及び各農業協同組合へ連絡してください。  
※組合に所属していない場合は南部家畜保健衛生所に連絡してください。

検査回数：2回実施(1回目：7月、2回目：11月予定)

検査料金：無料



- ・バルク乳検査は搾乳している牛が対象です。乾乳牛の検査はできないため、期間を空けて2回目の検査を行うことが望ましいです。※検査機関は下記のとおり。
- 民間検査会社 (日本動物特殊診断(株)、(株)家畜健康管理HALC、全農クリニックセンター 他)
- 南部家畜保健衛生所 検査結果判明まで1~2週間程度要する場合があります。(有料)

・バルク乳検査の対象とならない子牛・育成牛について検査御希望の場合、南部家畜保健衛生所までご相談ください。(有料)

南部家畜保健衛生所 TEL 04-7092-2304 FAX 04-7092-1434

※休日、夜間は転送されますので必ず5回以上のコールをお願いします。

## (参考) BVDバルク乳検査の流れ

### ① 検査希望調査

1回目の検査をした方は自動的に検査対象。

1回目の検査をしていない方で2回目の検査を希望する方は、所属する生乳出荷組合へ希望の有無を連絡



### ② バルク乳検査（無料）：1回目：7月、2回目：11月頃予定

※バルク乳の採材方法・日時は出荷先クーラーステーションにより異なりますので、詳細が決まり次第お知らせします。

バルク乳陽性



### ③ 清浄性確認検査

採血・耳片採取による全頭検査（無料）

陽性牛



3週間以上の間隔をあげ再検査



2回目 陽性



PI牛

PI牛が確認された場合、以下の清浄化計画を実施

### ④ PI牛の自主的とう汰（※と畜場・市場への出荷×）

### ⑤ 全飼養牛のPI牛確認検査

→陽性牛は3週間以上間隔あげ、再度検査を行いPI牛の判定

### ⑥ 新生子牛の追跡検査（10か月間）

## なぜバルク乳で

# 牛ウイルス性下痢（BVD）を検査するのか？？

- ・牛ウイルス性下痢（BVD）はウイルスによる感染疾病です。
- ・BVDは下記の2種類の感染があります。

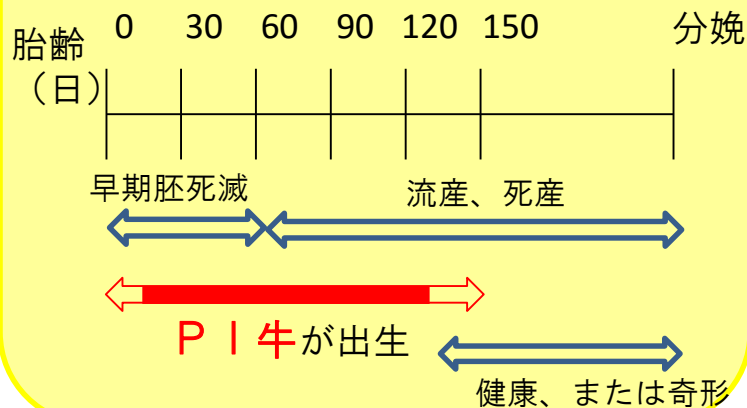
### 急性感染

- ・牛群にウイルスが侵入すると一過性の発熱・呼吸器症状、下痢、乳量低下、繁殖障害等がみられます。
- ・免疫抑制も起こるため、**二次的に他の感染症を誘発**します。
- ・妊娠牛が感染し、ウイルスが子宮内に侵入すると胎子に感染し、異常産（胚死滅、流死産、奇形）が起こります。
- ・感染後2週間程度で自然治癒し、免疫を獲得します。

### 持続感染

- ・胎齢約**4か月頃までに**妊娠牛が感染すると、**その胎子**はBVDウイルスに対する抗体を作らず、感染が持続します。この状態で生まれた子牛を**持続感染牛（PI牛）**と言います。
- ・PI牛から**生まれる子牛は必ずPI牛**です。
- ・PI牛は外見では分かりませんが、ふん尿、鼻汁、唾液、乳汁などを介して生涯にわたり大量のウイルスを排出し続けるため、**農場は汚染され続けます**。

### 【感染時期による胎子への影響】



乳汁中にもウイルスが排出されるため

バルク乳検査はPI牛を摘発するために有効です！！